

# 中部人懇通信 No.2

PTA  
対象

平成26年7月5日(土)に、PTAを対象とした中部地区人権教育懇談会を開催しました。その内容を報告します。

講演『「10秒の愛」・心に優しさの貯金～幸せは きっとあとからやってくる～』

鳥取県PTA協議会長 井上洋子さん

## (1) 人権教育からの気づき

- ・しゃべってなんぼ、つながってなんぼだと思う。つながると助けてもらえる。自分の話を聞いてもらえる。とても気持ちいい。
- ・「早くして！」は子どももつらい。

## (2) PTA活動の目的

- ・PTA活動はお祭り活動ではない。地道な活動である。高校や大学に入れることが目的ではない。自立した温かい気持ちを持った大人に育てることが大事。

## (3) やっぱり継続は力なり

- ・子どものおかげで保護者もつながる。保護者会全家庭出席を目指し、声かけを始めた。ある保護者は、会への参加を何かにつけて断っていた。「飲んでいるから」と言われれば「迎えに行っておあげる」など、その人の言い分を受け止めながら、寄り添い、粘り強く声をかけた。時間はかかったが全家庭出席が実現した。きっかけがあれば出てくるようになる。

## (4) 大人は子どもの応援団

- ・「いつも応援しているよ」、「よく頑張っているなあ」、その一言で子どもは救われる。
- ・応援団は多い方がいい。地域住民の応援を励みにすれば、更に優しさの貯金は増えていく。

## (5) 最後に

- ・自分の親が「ええ子に育てとるなあ」と自分を褒めてくれることがうれしい。自分が親から教わったものを子どもに伝えていきたい。



## グループ協議「保護者同士の関わりについて」

グループ協議では、PTAの中で保護者同士がさらにつながりする方法はないか、実際にどんなふうに行動していったらいいかを話合いました。「例年通りの活動を打破していきたい」、「学校の先生ともっとつながれば、学校の情報も入ってくる。情報収集は大事」、「来ない人を切り離すのではなく、そういう人にこそ声をかけていきたい。」など、具体的な活動につながる話合いになりました。

## グループ協議指導助言者

山下千之さん(はばたき人権文化センター所長)  
前田英敏さん(赤碕文化センター生活相談員)  
村口 恵さん(湯梨浜町人権教育推進員)  
中尾美千代さん(やまびこ人権文化センター所長)

## 【参加者の感想より】

- 講演を聞いて「早く!!」という言葉が減らしていきたいと思った。
- 学校の先生ともっと会って、自分たちのやりたいことを伝えたい。
- 「お母さんが応援しないはずがない」と子どもに思ってもらえるような母親を目指したい。
- 学級懇談のテーマを事前に連絡すれば、興味を持ってきてくれるのではないかと思った。
- 「人権教育って何なのかな?」と改めて考え、やっぱり、つながりを持ち、広げ、実践する力をつけることなのかなと再認識できた。



## 【指導助言者の話】

- 今起きている問題を人任せにしないで、自分ができることを考えてほしい。
- PTA会員には先生も入っており、先生とよりよい関係を築いてほしい。また先生も会員である意識を持ってほしいと思う。
- 問題行動を起こしたことがある子どもの保護者は、学校に来ることが怖い。そういう親ほど声かけをしてつながってほしい。
- 話をしていると、ここから先は個人情報だと言われ、会話が続かなくなる。交流し、信頼関係を築くことによって個人情報の壁が低くなっていくのでは。
- 同じ世代の親同士がかたまりすぎている。子どもがいるうちにいろんな世代とつながる努力をしないと地域がだめになってしまう。

